

安全確保への主な取り組み

安全体感研修センターを新設

当社は、製造現場での労働災害撲滅に向けて、安全教育やリスクアセスメント活動などを推進していますが、その一環として、労働災害の危険を疑似体験できる、安全体感研修センターを設置しました。

危険から身を守るために、全ての動物に備わっている本能は、「危ない」という感覚です。しかし、人は慣れや過信から、この防衛本能を忘れがちです。

そこで、危険への感受性と安全への意識を高めることを目的に、災害が発生し得る状況を再現し、「危ない」という感覚を体感できる施設として当センターを設置しました。当センターでは、製造現場で発生し得る危険事例などに基づいて設計された体感設備により、高所作業・玉掛作業・電気関連作業など34項目の危険状態を体感することができます。

安全体感研修センターでの安全教育は、当社グループの従業員に加えて協力会社従業員も対象とし、当社の工場で働く全ての作業者の安全意識向上を図っています。



リスクアセスメントへの取り組み

職場に潜んでいるリスクを見つけ、改善策を実施しながら計画的にリスクを潰していく活動を推進しています。

2010年7月に開催されたTPM社内大会では、リスクアセスメントによる本質安全化の取り組み事例の発表がありました。



設備稼働区域への侵入防止対策

設備稼働区域では、作業者が誤って機械を止めずに侵入するのを防ぐため、安全柵、安全プラグスイッチ(扉を開けると自動的に設備が停止)の設置、扉の施錠を行い、ヒューマンエラーによる災害を防止しています。



健康・衛生への主な取り組み

従業員の健康管理

健康支援策として、診療所での健康診断検査内容を充実させるほか、40歳から5年毎に人間ドックの受診を義務づけています。



AEDの設置

AED(自動体外式除細動器)を診療所など社内に6台設置し、心肺蘇生法とAEDによる応急処置訓練を実施しています。



禁煙治療制度を開始

喫煙習慣は「ニコチン依存症」といわれ、治療が必要な病気とされています。また本人はもちろんのこと、受動喫煙によって周りの人の健康にも害を及ぼします。当社では治療を希望する従業員を対象に、カウンセリングや禁煙についてのフォロー・投薬を行う禁煙治療制度を設けています。

「メタボ」解消のための保健指導を実施

心臓病や循環器病を引き起こす要因のひとつとなることが知られている「メタボリック・シンドローム(メタボ)」解消のための保健指導を実施しています。40歳以上の指導を希望する従業員を対象に、栄養管理士が、食事内容、運動等、生活全般に渡る事柄を電話やメール等を使って指導しています。